卒業生

自分自身と向き合った日々

立教大学文学部史学科1年
道谷　寛輝　さん
北陸学院高等学校2019年度卒業

野球をひたむきに頑張りながら、勉強にも意欲的に取り組んできた。ミッションでの教えを自分なりに受け止め、考える時の一つの指針にしている。

仲間と過ごした3年間

野球部で僕の学年は30名を超えていたので、仲間と切磋琢磨して部活動に励みました。みんなで「先生からも応援されるチーム」を心がけていたので勉強にも力を入れ、仲間と校内成績で競うなど勉強へのモチベーションの起爆剤になっていたと思います。

ミッションだから学べたこと

野球だけではなく、普段の生活でも自分の頭でよく考えることを意識していました。そのきっかけになったのが、学校行事である修養会です。自分の良いところを作文し、グループの皆で発表し合うことで、「不完全な自分」を好きになることができたし、考えることの素地ができたように思います。

野球部で気づいた役割

人数が多い分メンバー入りの競争が激化し、試合に出られないことも。そんな時は、野球部で大切にしている「全員主役で全員脇役」という言葉のもと、どうしたらチームが勝てるかを客観的に分析。その結果、ベンチ外のメンバーも全力でサポートした試合は成績が良いことに気づき、「ベンチ外の僕たちが勝たせてやる!」と強く心に誓ったことを覚えています。

野球ノートにこの時の思いを書き込み、後輩に語り継いでもらうよう監督に伝えました。

役割を果たす大切さ

ミッションでは、「置かれた場所で咲きなさい」というフレーズを何度も聞きます。「今自分に与えられている役割が本望かどうかに関わらず、自分の出せる力を発揮しなさい」という意味だと僕は捉え、頑張ってきました。後輩の皆さんも、何か壁にぶつかった時には自分を信じて前に進んでいってほしいです。